農林水産物・食品　国別マーケティング基礎情報

JETRO

【更新】2025年8月

国・地域名

バングラデシュ

人口・経済発展状況等 〔参考：日本〕 ●人口：１億2,374万人 （2024年12月確定値、総務省統計局 「人口推計」2025年5月20日公表） ●実質GDP成長率：0.8% （2024年度（前年度比）、内閣府 経済社会総合研究所 「国民経済計算（GDP統計）」2025年） ●1人あたり GDP(実質):3万2,498ドル （2024年、IMF WEO2025年4月）	・ 人口	**1億7,202 万人**	2024年（IMF WEO2025年4月）
	・ 実質ＧＤＰ成長率	**4.2 %**	2024年（IMF WEO2025年4月）
	・ 1人あたりのＧＤＰ(名目)	**2,622 ドル**	2024年（IMF WEO2025年4月）
	・ 為替レート（1BDT：バングラデシュタカ）	**0.008197 ドル**	三菱UFJリサーチ＆コンサルティング_世界の為替相場(2025年5月)　＊2022年9月より、中銀ウェブサイトでの表記がTTS/TTBから最高値/最安値に変更
	・ 日本の直接投資額	**46 億円**	財務省「対外・対内直接投資フロー令和6年（2024年）」
	・ 進出日系企業数	**315 社**	外務省「海外進出日系企業拠点数調査」（令和5年10月1日現在）
	・ 在留邦人	**965 人**	外務省「海外在留邦人数調査統計」（令和6年10月1日現在）
	・ 訪日外客数	**23,896 人**	日本政府観光局（JNTO）「日本の観光統計データ」2024年訪日外客数の推移
	・ 日本食レストラン数	**30 店**	農林水産省「海外における日本食レストランの国・地域別概数」（令和5年10月13日）

日本からの農林水産物輸出状況 **（2022年/二国間貿易実績、 農林水産省）**	**52位　6億円　うち農産物2億円(41.4%)　林産物0.1億円(2%)　水産物3億円(56.6%)** **輸出額の多い品目：配合調製飼料、 魚油（肝油除く）、 播種用の種等、 ペプトン等、 木製建具および建築用木工品**
味覚、嗜好上の特徴	・ はっきりした味付けを好む。例えば、ソースやしょうゆをたっぷりつけて食べる。 ・ 辛いものを好む傾向がある。辛くないものは、唐辛子などのスパイスで辛さを追加することがよくある。 ・ 甘いものも好むが、食べ慣れていない食品を甘すぎると感じることがある。ドーナツをシロップ漬けしたバングラデシュスイーツ（グラブ・ジムン）が定番だが、砂糖をたっぷり使った直接的な甘さが好まれている。 ・ 生ものを食べられる人は、日本に旅行に行ったことがある人や日本に親しみがある人などが多い。
制度的制約	・ 関税：輸入時に6種類の税金（一般関税、調整税、補足税、付加価値税、前払い所得税、前払い税）がかかるため高関税となる。 輸入品目によって関税率が異なるため、国会歳入庁の輸入税検索サイトを事前に参照することが推奨される。 <https://bangladeshcustoms.gov.bd/trade_info/duty_calculator> ・ 輸入規制： ①放射性物質検査が必要となる。 ②食品および飲料を輸入する場合は、いかなる種類であっても、製造年月日と消費期限を各包装や容器に明確に直接印刷する必要がある。 ③輸入時に必要な証明書は、バングラデシュ税関のウェブサイトでHSコードごとに検索できる。 <https://hub.bangladeshcustoms.gov.bd/operative-tariff/search/import> ④輸入する食品／食用可能な物質はすべて、次の2つの機関による法定検査を受けなければならない。 ・バングラデシュ基準検査機関（Bangladesh Standards and Testing Institution：BSTI） ・バングラデシュ科学工業研究評議会（Bangladesh Council of Scientific and Industrial Research：BCSIR） ・ 輸入禁止品目：生きている豚、および豚から作られた加工品すべて、エビ（第03.06項の関連するすべてのHSコード）、ぶどう酒かすおよびアーゴル（第23.07項の関連するすべてのHSコード）。 ・ 輸入障壁：牛肉は実質輸入不可。バングラデシュ政府が輸入に必要な書類である「異議なし証明書（NOC:No Objection Certificate）」を発行しない状況にある。
商流・物流・商習慣	・ 物流： ①日本からバングラデシュ（チョットグラム港）までの所要日数は次の通りである。 ・シンガポールやマレーシアを経由：約3週間　※2週間以上の積み替え待ちが恒常的に発生している。 ・日本からの直行便（横浜港・神戸港のみ）：18～19日。 ②港や空港におけるリーファーコンテナの開閉頻度が高く、温度や湿度の徹底管理が難しいため、品質劣化のリスクがある。 ・ 決済： ①基本的にL/C (Letter of Credit：信用状)決済。T/T(Telegraphic Transfer：電信)送金は国の規制により難しい。 ②政府の外貨準備高、バングラデシュ中央銀行・商業銀行の方針、輸入業者の都合といった複数の要因から決済遅延のリスクがある。 ・ 商習慣： L/C at sight(銀行が船積書類を確認した時点で、直ちに代金が支払われる決済条件)であっても、輸入業者による貨物の引き取りが先になるケースがある。 ・ 商流：輸入業者や卸売業者を介して小売店に流通している。 ・ 日本産食品はタイから輸入されることが多いが、日本から直接輸入している輸入業者もいる。
Eコマースの概要	・ 新型コロナ禍以降、ECプラットフォームが普及した。 ・ 食品を購入可能なECは、Chaldal、Daraz、BAZAR365、小売店のウェブサイトなどがある。 ・ フードデリバリーサービスでは、フードパンダが普及している。

Copyright © 2025　JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

国・地域名

バングラデシュ

【更新】2025年8月

外食・小売等の状況	・ 外食： ①日本食レストランの大部分がフュージョン料理を提供、首都ダッカ（グルシャン、ボナニ、ウットラ、ダンモンディ地区）を中心に展開されている。 ②同じ屋号で複数の店舗を展開している日本食レストランが5つ(匠、GINZA、IZAKAYA、TOKYO KITCHEN、Wasabi)ある。 ③人気のメニューはサーモンロールとエビ天ぷらである。 ④中華料理、韓国料理、タイ料理、スペイン料理、イタリア料理などを提供するレストランが展開されている。 ・ 小売店： ①構成比率：野外仮設店舗や路面店（69%）、市営市場（19%）、コンビニエンスストア（8%）、スーパーマーケット（4%）。 ②スーパーマーケットは全国に200店舗展開（チェーンの店舗は1カウント）している。 ③日系スーパーマーケットはなく、現地系の小売店が多い。また、東アジア系の小売店では韓国系や中華系の小売店も見受けられる。 ④各小売店では、日本産の並行輸入品もよく見受けられる。
日本食普及状況等	・ バングラデシュの食品市場は、2020～2025年には年平均10%で拡大し、2025年には金額ベースで約1,790億米ドルを記録すると予想されている。 ・ 世帯当たりの年間食品支出額は、2025年に約956米ドルに達し、2029年には約1,374米ドルに達すると予想されている。 ・ 日本食品は導入期にある一方、内需開拓を目指す現地食品企業が増加している。 ・ 正規のルートで輸入される日本産の食品が限られている一方で日本のメーカーや公式代理店を介さずに輸入されている並行輸入の日本産食品が多い。日系企業が他国で生産した商品の流通が主流である。 ・ 仕入れ可能な日本産食材が限られているため、日本食レストランは品揃えの充実を期待している。

Copyright © 2025　JETRO. All rights reserved. 禁無断転載